

(5) 県立中村中学校

学 校 長 山崎 源生
校内研究代表者 中本 大

1. 研究主題

学習の目的に向かって様々な情報から根拠を明確にし、自分の考えや思いを意欲的に表現し合える発問・学習活動の研究

2. 主題設定の理由

本校生徒は、通学区域が広範囲で多くの小学校から集まった集団である。素直で優しい生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。一方で、まわりとの人間関係を築くことを苦手としている生徒が増加傾向にあり、Q Uにおいて要支援群に属する、発達障害等により人間関係づくりに課題がある、自分の悩みや心配事を自ら相談できないといった生徒も多数いる。また、学習面においては、複数ある情報や条件を整理したりそれに基づいて論理的や簡潔・明瞭に表現したりすること、条件や条件の変更即して問題を解くこと、表現の中に必要な情報がないといった課題があり、意味的理解や基礎的な知識・技能の定着、家庭学習時間が年々減少傾向にあり学年が上がるごとに少なくなる、主体的に学ぶ意欲のある生徒とそうでない生徒の格差が開いていることも課題である。そして、教師側には ICT を活用するなどした協働学習させ方に課題がある。

上記の課題から、生徒指導の三機能・特別支援教育・道德教育・特別活動の充実を図り生徒が安心して学べて表現し合える居場所づくりをベースとし、生徒が意欲的に目的に応じて複数の情報を取捨選択しそれをもとに根拠を明確にして論理的に表現し合えることができるような発問や学習活動を研究し授業改善をしていくこととした。

3. 研究の進め方と方法

本校は中高一貫教育校であるため、校内研究は中高合同で行っているものと中学校独自で行っているものがあり、研修計画も分掌を中心に立案し研究を進めている。昨年度からは中学校独自の様々な課題について研修する時間を確保するため、月1回の中学校校内研修の時間を設定した。

☆中学校独自

- ・中学校校内研修（月1回）
- ・中学校サポート委員会（月1回）
- ・中学校確認会（月1回）
- ・教科会（週1回）
- ・学年部会（週1回）

☆中高合同校内研修

- ・進路指導部・・・進路、学習関係全般
- ・サポート部、生徒指導部・・・生徒の心のケア、人権教育、生徒指導関係全般
- ・研修部・・・ピアチューターや課題研究
- ・総務部・・・防災関係全般

4. 研究内容

☆中学校独自

- ・校内研修⇒生徒が安心して学べる居場所づくりと授業改善（資質・能力ベースの授業づくり）
 - 4月：今年度の研究主題や研究の方向性等の確認、道德教育と道徳科
 - 5月：安心して学べる居場所づくり（インクルーシブ教育・発達障害・生徒指導三機能）
- ※講師：西部教育事務所 奥宮指導主事
全国学力・学習状況調査（自校採点）の分析

6月：研究授業①（1年数学）研究協議

7月：1学期の総括と2学期に向けて、行事の反省、来年度に向けて

8月：タブレット端末やデジタル教科書等の効果的な活用、情報モラル教育、「今求められる」
資質・能力を育成する授業づくり ※講師：西部教育事務所 河野・上岡指導主事
「人間関係づくり実践講座」と「道徳教育教育パワーアップ研究協議会」の報告

9月：全国学力・学習状況調査（業社採点）の分析

研究授業②（3年理科・ICTの活用）指導案検討

10月：研究授業②（3年理科・ICTの活用）公開授業・研究協議

※講師：西部教育事務所 小谷野指導主事

11月：来年度に向けて

12月：行事の反省、来年度に向けて

SOSの出し方に関する教育（「傾聴」について）※講師：小松スクールカウンセラー

1月：県学力定着状況調査自校採点の分析

SOSの出し方に関する教育の授業について

2月：年度末検証

3月：県学力定着状況調査業者採点の分析、来年度の研究主題等の確認

- ・サポート委員会⇒サポートの必要な生徒の情報共有と支援の在り方
- ・教科会⇒授業づくりや学習進度確認等
- ・学年部会⇒生徒支援、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等について

☆中学校、高校合同の取り組み

<進路指導部：学力向上のための組織的な取り組み>

①毎週月曜日実施の確認テスト

国語・数学・英語の順に毎週実施（不合格者は再テスト）

②家庭学習時間調査（年3回実施）

生徒の家庭での学習の状況を定期的に把握し、日々の指導に生かす。また、保護者への啓発と協力の要請に活用する。

③高校教員との異教科間の相互授業参観

校種と教科を超えた相互授業参観を実施し、相互に評価し合う。高校での授業の様子を見ることができると同時に、県中卒業生の成長を知ることができる。

【参観の視点】

- 1 学習の目標（めあて）を明確に示し、生徒と共有できている。
- 2 意欲的に授業に取り組もうとする生徒の姿がある。
- 3 生徒の興味や知的関心を引き出す発問・指示ができている。
- 4 授業のねらいに応じた学習形態（ペアやグループなど）の工夫ができている。
- 5 生徒が他の生徒と協調・協力して活動する場面を設定できている。
- 6 何ができるようになったかを、生徒が振り返る場面を設定できている。

④学力検討会

学期に1回実施。教科部会で分析したのち、中高全教職員で共有する。協議を通して、学力の現状と課題を把握し、実現可能な新たな数値目標や取り組みを設定する。

<サポート部>

- ・Q-Uアンケート（年2回）と学校生活アンケート（年5回）の実施と実施後の迅速なアンケート集計とその対応
- ・学校生活アンケート実施日に即日集計し、その日のうちに気になる生徒に面談等の実施。
- ・いじめ検討委員会（随時）の開催

<研修部>

- ・中高6年間を見通したキャリアプラン、「総合的な学習の時間」の見直し
- ・ピアチューター：中学生と高校生との異校種間交流

5. 今年度の成果と課題

【家庭学習時間調査】：平日の家庭学習時間（昨年度11月⇒6月⇒11月⇒2月）

1年:93分⇒97分⇒93分、2年:64分⇒64分⇒54分⇒54分、3年:51分⇒52分⇒54分⇒57分

【教員授業づくりアンケート】

- ・授業において「めあて」の提示ができています。
⇒①できている：67% ②概ねできている：33%
- ・授業において「まとめ」「振り返り」ができています
⇒①できている：42% ②概ねできている：50%
- ・わかりやすい授業になるように工夫しています
⇒①できている：25% ②概ねできている：75%
- ・授業においてタブレットなどのICTを活用している
⇒①できている：25% ②概ねできている：58%

【学校評価アンケート】

- ・(生徒は) 学校生活での生活に満足している ⇒生徒95.1%、保護者86.0%
- ・(生徒は) 目標を持って学校生活を送っている ⇒生徒86.2%、保護者70.0%
- ・(生徒は) 悩みや心配事があるとき、教職員に相談している ⇒生徒53.3%、保護者70.0%
- ・分かりやすい授業が多い ⇒生徒92.6%、保護者58.0%
- ・教材や教え方を工夫している教職員が多い ⇒生徒93.5%、保護者47.0%

「授業改善」については、研究主題や授業研の視点、授業スタンダード等を年度当初に確認し、それをもとに年2回の研究授業を実施した。各種学力調査の結果分析の共有、各教科の授業改善プランの事後課題や道徳科の授業板書の掲示などにより授業改善への意識は上がり、それが学力調査や各アンケートの結果につながった。しかしながら、用語の意味的理解や基礎的な知識・技能の定着、情報の読み取りや複数のある情報を活用し思考・判断・表現すること、家庭学習時間、学ぶ意欲や学力定着の生徒間格差等といった課題については、昨年度から引き続き課題が残っている。また、ICTの活用については、家庭学習での利用を含め効果的な活用について引き続き研修が必要である。

「生徒が安心して学べる居場所づくり」については、日々の生徒との関りを中心として、講師を招聘しての研修やSC・SSWの助言、外部機関との連携等をもとに、生徒が安心して学べる居場所づくりに努めてきた。「目標をもって学校生活を送れている」生徒は前年比+6.5となっているが、不登校や別室登校の生徒、発達障害などにより人間関係づくりに支援が必要な生徒への支援には課題が残る。

上記の課題から来年度も「生徒が安心して学べる居場所づくり」と「授業改善」の2つが校内研の柱となる。今年度同様、生徒指導の三機能・特別支援教育・道徳教育・特別活動の充実を図り生徒が安心して学べる居場所づくりを進めるとともに、特に特別支援の視点での生徒理解や人間関係づくり・授業づくりといった研修をしていく必要がある。また、授業改善についても今年度の内容を継続していくとともに、家庭学習や学力格差の改善が図れるよう研究・研修を進めていく。来年度から月2回校内研の時間が設定されることを活かし、校内研の質を高めていく。